

岐阜市立則武小学校5年1組の総合的な学習の時間において、木曾川上流河川事務所が作成した防災教育教材(学習指導・発問計画、板書計画、その他の教材(自然災害の映像、自然災害に関する資料、浸水深等身大パネル、ワークシート等))を用いた授業が実施されました。

- 日時：令和2年10月20日(火) 14:25~15:10 (45分)
- 場所：岐阜市立則武小学校
- 対象：5年1組(36名)
- 担当：則武小学校 若林先生
- 教材：発問計画(教員用)
：板書計画(教員用)
：提示資料(岐阜県自然災害の年表や位置図、小学校版ハザードマップ、浸水深等身大パネル、「9.12豪雨災害」時の写真)
：映像資料(近年の大規模な自然災害、「9.12豪雨災害」の体験者の話)
：ワークシート(学習でわかったこと、考えたことを記入するプリント)

- 【授業の内容(則武小学校5年1組の例)】
- テーマ 1. 過去の自然災害※
- ①導入：岐阜県の主な自然災害の年表と位置図を見て、自然災害を意識する。
 - ②展開前段：ハザードマップや浸水深等身大パネル、岐阜市内の被害写真から、自分たちの地域が浸水した時の状況を想像させる。
 - ③展開後段：「9.12豪雨災害」体験者の話(映像)を聞いて、水害の恐ろしさ・大変さを知る。
 - ④終末：ワークシートに学習を通して学んだこと・感想をまとめる。
- ※今回は4テーマある内の1つを授業で取り扱いました。

【木曾川上流河川事務所が提供した教材の例】

発問計画の例

ワークシートの例

板書計画の例

提示資料の例

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の授業での活用例】



授業の導入部で、岐阜県の自然災害の年表や位置図を使って、自然災害について意識させる



ハザードマップから自分たちの地域が浸水した場合、どれ程の水の深さになるのか学ぶ



浸水深等身大パネルから、浸水が起きた場合、大変な深さになることを実感させる



「9.12豪雨災害」体験者の話(映像資料)を見て、わかったことや感じたことを発表



授業を通して、わかったことや自分で考えたことをワークシートに記入

～みんなの声～

- 年表や位置図から自然災害はいつ、どこで起きるのかわからないのだと思いました。
- 「9.12豪雨災害」体験者の映像を見て、水位は上がったたり下がったりを繰り返したのだとわかりました。
- 警報が解除されても、堤防が決壊したことが有るので、油断できないと思いました。
- 災害時には協力が大事で、近所づきあいをよくしようと思いました。